

未来志創

毎週購読している「日本講演新聞」という新聞があります。新聞を束ねている帯(右の写真)に今週はこんなことが書かれていました。「一流・二流・三流、あなたは何流を目指しますか?」。「目指せるものなら一流を!」と思った私ですが、もう一言書いてありました。【社説参照】。これは見るしかありませんね。紹介します。

岡本奎一 様

一流・二流・三流、あなたは何流を目指しますか?【社説参照】小坂弘子

一流・二流・三流、みんな素晴らしい

取材で出会う講演会の講師の方々は、過去に壮絶な経験をしていたり、豊富な知識を持っていたり、皆さんすごい人たちばかりだ。

特に苦難を乗り越えてきた大手企業のトップや世界的なスポーツ選手など、地道に一つの道、一つの技を極めてきた人たちの話には、ただただ感服する。

俗に言う「一流」と呼ばれる人たちののだろう。そういう人から学びたいと思うし、生き方の手本にしたいと思う。

一般的に一流の人とは、ある分野における技術や技能、知識で最上の地位にいてだけではなく、普段の立ち居振る舞いや人格の面でも、周囲から「一流」と評価される人のことをいう。

ただ、そういう人たちに学び、背中を追いかけていけば、やがて自分も「一流」と呼ばれる境地に辿り着けるのかと言うと、必ずしもそうはならないようだ。

つまり、「世の中には一流を目指せる人とそうでない人がいる」。そして「一流を目指したほうがいい人とやめたほうがいい人がいる」のである。実はこれ、『三流のすすめ』(ミシマ社)の著者・安田登氏の言葉だ。

自らを「三流の人間」と自称する安田登という男がどういう人なのかというと、これがよく分からない。

能楽師のワキ方でありながら、甲骨文字やシュメール語の研究者でもある。かと思えば論語の本も出版している。

高校時代は漢文にハマリ、白文で読めるほどになった。同時に中学からバンド活動を始め、高校生になると五つのバンドを掛け持ちしていた。そのうちの一つは大人のセミプロのバンドで、高校生の彼は編曲もやらされていた。まだある。高校時代に「日本自作航空機協会」に入っていて、自分でハンググライダーを作り、ほんの一瞬、「飛んだ」経験もしている。

要は、飽きっぽい上に、好奇心旺盛なのである。いろんなものに首を突っ込み、没頭したかと思ったら、飽きてまた別のものに没頭する。だから、どれもものにならない。それを繰り返しながら安田さんは還暦を越えてきた。

安田さんの「三流論」が面白い。「三流」という言葉は、中国の『三国志』に出てくる魏の国の劉劭(りゅうしょう)という、学者であり政治家が書いた『人物志』という書に出てくるそうだ。

その書では、現代の「一流・二流・三流」という言葉が全く違う意味で使われている。

すなわち、「一流の人とは一つの道を究めた専門家」で、「二流の人とは二つのことに詳しい専門家」。そして「三流の人とはいくつも専門を持つ人」。安田さんの解釈すると「いろんなことに興味・関心を持つ好奇心旺盛の人」を三流という。

イチローや将棋の羽生善治九段は一つの道を究めた一流の人。コロナ禍で売り上げが激減し、店を畳んだにもかかわらず、同じ居酒屋を、今度は場所を替え、規模を小さくしてオープンさせた頑固な親父も、そういう意味では一流を目指す人だ。

たとえば、学者として世に知られ、しかも武道上段者は二流の人になる。

三流の人の特徴は、まず「飽きっぽい」、そして「好奇心旺盛」で、「行動力がある」、さらに興味を持ったらず没頭する。しかし究めない。というか途中で飽きるから究められない。そして転職したり、新しいことをゼロから始める「勇気」も必要だ。本当はやめたいのにやめられない現実に縛られていたら三流の人にはなれない。

それから一流の人は大きな目標に向かっていて途中で挫折すると、ショックは大きく、立ち直るのが容易ではない。

一方、三流の人には「目標がない」。例えば年頭に「今年の抱負は?」などと聞かれると困ってしまう。いつも「今」が起点、「今」に集中し、「今」を生きている。

そして人の評価を求めないし、認められなくても気にしない。それくらいの心持ちがないと三流の人にはなれないという。三流もなかなか険しい道のりだ。

現代の「一流・二流・三流」という価値観と異なるが、どうあがいても「一流」になれない人にとっては、とても生きる希望になる。

一流を目指すもよし、二流を目指すもよし、三流も目指すもよし、である。それぞれの道で自分を磨き、高めていこう。
「日本講演新聞 11/15 2907号 社説」より

「なるほどなあ」と思いました。自分はどの道が合っているのだろうか…?と思わず考えてしまいました。また、小学校や中学校のうちから何か一つと決めずに、いろいろな教科を学ぶのは、もしかしたら「一流」「二流」「三流」のどれを目指すことになってもいいように準備しているのではないかと私は思いました。「どれでも目指せるよ! どれを目指してもいいんだよ!」というメッセージかも…。